

2022年度
作曲コース作品発表演奏会
第2夜

2022年12月20日(火)開演 18:00 (開場 17:30)

洗足学園 シルバーマウンテン1階

主催：洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Greeting —ごあいさつ—

この度は作曲コース作品発表演奏会にお越しくささいまして、
ありがとうございます。

作曲コースの学生は各自が求める音楽を自由に追求していますが、
1年間の学修の成果として本コンサートで作品を発表します。

例年、古典の様式から現代の様式までさまざまな音楽様式がみ
られますが、その多様性は現代の音楽文化の多様性を映し出すと
ともに、本コンサート、そして作曲コースの魅力となっています。

2020年度は新型コロナの状況を鑑み、オーケストラによる発表
を行うことができませんでしたが、昨年度よりオーケストラでの
演奏を再開しました。

今年度もまだ一般のお客様に直接お聴きいただける環境ではご
ざいませすが、徐々に従来の音楽会の姿が戻ってきていることを
実感するとともに、学生が生き生きと作曲に励んでいる姿を見ら
れることが何より喜ばしく思います。

コロナ禍の中でオーケストラはもとより、合唱、室内楽、そし
て独奏作品の演奏に携わっていただきます指揮者や演奏者の方々
には、この場をお借りして御礼申し上げます。

それでは、自らの創作を追求する作曲コース学生の成果をお楽
しみください。

作曲コース アカデミックプロデューサー
清水 昭夫

Program —プログラム—

高木 洸人 : 《City At Night》

Soprano Saxophone	庄司 凧沙(学1)
Alto Saxophone	佐藤 歩希(学1)
Tenor Saxophone	阿部 啓康(学1)
Baritone Saxophone	中山 心永(学1)

閔 澤宇 : 幻想曲《オレンジ色の夢》

Flute	山上 智寛(学3)
Oboe	奥野 彩(学3)

古澤 響子 : 《ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ハ短調》第一楽章

Violin	頼近 友莉奈(学4)
Piano	三浦 琢磨(学4)

三井 哲 : ピアノ三重奏曲 第一番《Last Run》より第1楽章、第3楽章

Violin	小玉 みどり(学2)
Violoncello	佐々木 七穂(学2)
Piano	石田 琉奈(学1)

迫田 琉希 : 《一筋の絆》

Conductor	蓮田 望美(学2)
Soprano	安藤 ありさ(学1)、井村 咲月(学1)、笠 玲愛(学1)、 菅原 恵里佳(学1)
Alto	今井 蓮珠(学1)、片桐 綺羅(学1)、西澤 姫花(学1)、 和知 未涼(学1)
Tenor	小林 真幸(学1)、白岩 祥明(学1)、宮田 柁(学1)
Bass	大久保 樹(学1)、佐竹 光輝(学1)
Piano	柳田 菜々子(学1)

— 休憩 —

Program - プログラム -

板橋 文音: 《美しふれて》

Violin I	三谷 月菜(学3)
Violin II	松村 あみ(学3)
Viola	小林 真子(学3)
Violoncello	佐々木 七穂(学2)

石原 快斗: 《弦楽四重奏のための3つの小品-数、線、面。》

Violin I	小林あや(学2)
Violin II	鈴木 利々果(学2)
Violoncello	佐々木 七穂(学2)
Doublebass	福田 凧佐(学2)

佐藤 未羽: 《12時の鐘が鳴る頃に ~ドイツの昔話「黒いお姫さま」~》

Trumpet I	正木 航(学2)
Trumpet II	鹿野 円香(学3)
Horn	植田 香帆(学2)
Trombone	板橋 文音(学2)
Tuba	南迫 奏太(学2)

瀧本 理夏: 《弦楽四重奏曲》より第一楽章、第四楽章

Violin I	頼近 友莉奈(学4)
Violin II	早川 萌音(学4)
Viola	米倉 海陽(学4)
Violoncello	佐々木七穂(学2)

平澤 祐輝: Quintetto Suite《Conception》

Violin I	鈴木 利々果(学2)
Violin II	小林 彩(学2)
Viola	小玉 みどり(学2)
Violoncello	佐々木 七穂(学2)
Piano	平澤 祐輝(学2)

蓮田 望美: 混声合唱のための12のエスキス《のはらうた》より
「いちめんの ゆき」「あまえる ゆめ」「かわあそび」「おいわい」

Conductor	小谷野 友汰(学4)
Soprano	笠 玲愛(学1)、佐々木 英美莉(学1)、菅原 恵里佳(学1)、 和知 未涼(学1)
Mezzo Soprano	行場 結佳(学4)、福田 真桜(学4)、荒井 葉月(学2)
Alto	河村 未奈(学4)、菊地 さやか(学4)、井村 咲月(学1)

Program Notes — 曲目解説 —

高木 洸人 : 《City At Night》

この曲はモダンジャズのスタイルを踏襲しつつ、ソナタ形式に則り作曲した。提示部では川のいい第一主題と流れるような第二主題が提示され、展開部では第一主題を変形、変奏しながら各パートが絡み合う。そして、二つの主題の再現が終わると、最後は完全4度を中心としたコーダによって終始する。

< 作曲者プロフィール >-----

群馬県出身。群馬県立前橋南高等学校卒業。作曲を小山千草、清水昭夫、佐藤昌弘の各氏に師事、ピアノを藤井由香、皆川純一の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース1年在学中。



関 澤宇 : 幻想曲《オレンジ色の夢》

これは、ある内向的で口がきけない子供の夢です。夢の中で、主人公はもう一人の無邪気で活発な子供に会えました。二人は出会い、知り合って、一緒に話したり、遊んだりして、楽しい時間を過ごしました。こうして、寂しさは少しずつ癒されていきました。ですが、幸せな時間はいつも短い。別れは必ず来るし、夢はやがて目覚める。しかし、彼女は夢の中のぬくもりを忘れません。この気持ちを持って、彼女は新しい一日を始めていきます。

この作品では、2つの楽器を使用して、異なる性格を持つ2人のキャラクターを表現しています。ストーリーの最初、中間、最後を3つの異なるスタイルのパートで伝えます。

< 作曲者プロフィール >-----

中国山西省出身。太原市成成中学校卒業。10歳からピアノを習い、高校3年で武漢音楽学院の吳荻氏に師事。現在、作曲を台信遼、作曲理論を川崎真由子、ピアノを飯野明日香の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース1年在学中。



古澤 響子:《ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ハ短調》第一楽章

三楽章構成で、第二楽章は複合三部形式、第三楽章はロンド形式である。ハ短調には鉛色のイメージを持っている。うねる波のような第一主題に対し、光と軽やかさを感じる第二主題は平行調で、そのスタカート の性質を受け継いだコデッタが続く。展開部はピアノの低音部とヴァイオリンによる第一主題の掛け合いで始まる。第二主題は四声で展開し、その頂点ではワルツが聞かれる。再現部では楽節の長い再提示の方により重きを置いて、悲劇性を強調した。同主長調で再現される第二主題と続くコデッタの束の間の明るさは、コーダの陰鬱さを際立たせる。今回演奏を快く引き受けてくださった頼近友莉奈さん、三浦琢磨さんには心から感謝いたします。

< 作曲家プロフィール >

神奈川県出身。東京学芸大学付属高等学校、日本女子大学卒業。在学中、成瀬仁蔵記念賞受賞。四十の手習いのリコーダーがきっかけで和声の面白さに目覚め、いきおい作曲の勉強を始める。第5回おぢか国際音楽祭「島のメロディ作曲コンクール」で優秀賞受賞。作曲を面川倫一氏に師事。ピアノを東山洗雅氏、リコーダーを渡辺清美氏に師事。リコーダーコンサート青葉にてホルスト《セントポール組曲》、テレマン《アリア(ドイツマニフィカトより)》をリコーダーアンサンブルのために編曲し、定期演奏会などで演奏され好評を博した。現在、洗足学園音楽大学作曲コース1年在学中。



三井 哲:ピアノ三重奏曲 第一番《Last Run》より第1楽章、第3楽章

今年が鉄道開業150周年の年です。その長い歴史の中で個人的に1番「鉄道」を感じるのは長距離を走る列車、中でもブルートレインです。1958年に運行を開始した「あさかぜ」をはじめとして、走るホテルと言われたそれらは一世を風靡したものの時代の波には逆らえず、2015年8月にその幕を閉じました。この曲はそんなブルートレイン最後の列車である「北斗星」のラストランに焦点を当て、動画や自分自身がラストラン当日に感じたこと、ちょっとした妄想などを頼りに書きました。

北斗星に関係する曲を変奏したものや関係する場所の特徴をイメージした旋律を所々組み込むことによって、「楽章が進むにつれて終点に近づいていく」という構成をより強固なものにしています。

< 作曲家プロフィール >

東京都出身。私立城西大学附属城西高校卒業。高校2年生より作曲を始める。作曲と作曲理論を清水昭夫、照屋正樹の各師に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース1年在学中。



迫田 琉希 : 《一筋の絆》

この曲の歌詞は私が3年間付き合った彼女に振られた時に感じた想いをそのまま歌にしました。1番の歌詞は後悔や鬱などをテーマとし、2番はしてみたかったとこや楽しかった思い出などをテーマにしています。

テーマである一筋の絆というのは演奏者や聞いてくださる方々のご想像にお任せするためこのようなタイトルにしました。

< 作曲家プロフィール >-----

東京都文京区出身。中学1年生の時にゲームミュージックに強い憧れを抱きDTMを習い始める。高校2年生の夏からピアノや音楽理論を本格的に学び、ピアノ・作曲を松本隆彦に師事している。現在、作曲を清水昭夫氏に、作曲理論を照屋正樹氏に師事。洗足学園音楽大学作曲コース1年在学中。



板橋 文音 : 《美しふれて》

題名の「美しふれて」には様々な意味が含まれています。「美し」には、うつくし、くわし、などの読み方があり、ただ美しいというだけでなく、細やかな美しさ、という意味も併せ持っています。「ふれて」には、触れて、振れて、狂れて、などの漢字が当てられ、それぞれ異なる意味を持ちます。

この曲は自身が書く初めての弦楽四重奏曲であり、また、初めての無調性の曲でもあります。弦楽器の美しさや細やかさ、無調性の美しさや繊細さ、そしてそれらが振れて、狂れる瞬間に触れられるような曲にしたいと願い、「美しふれて」と名付けました。是非楽しんでいただけると幸いです。

< 作曲家プロフィール >-----

東京都出身。東京都立墨田川高等学校卒業。作曲を松下倫士、伊藤康英に師事、トロンボーンを五箇正明に師事、ピアノを岸本伸子、三瓶弥生の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース2年在学中。



石原 快斗:《弦楽四重奏のための3つの小品-数、線、面。》

基本的に弦楽四重奏はヴァイオリン2本にヴィオラとチェロのアンサンブルのことを指します。ところが例外的に、ロッシーニの「6つの弦楽のためのソナタ」という曲ではヴァイオリン2本とチェロとコントラバスという編成が採用されています。変則的な編成ではありますが面白いと思い、この編成を採用しました。

もともと全3楽章の演奏の予定でしたが、その内の一つの楽章が完成しなかったため省略して演奏します。第1楽章は素数を使ったミニマル・ミュージック。第2楽章は「ラングトンのアリ」というセル・オートマトンから着想を得て作曲しました。

<作曲家プロフィール>

県立前橋高等学校卒業。中学、高校と吹奏楽部にてチューバを担当、趣味で作曲をするも、特に何処かで発表することも無く今に至る。現在、洗足学園音楽大学作曲コース2年在学中。



佐藤 未羽:《12時の鐘が鳴る頃に 〜ドイツの昔話「黒いお姫さま」〜》

私は幼稚園に通っていた頃、お迎えのバスを待つ間にいつも読んでいた絵本がありました。当時は幼かったこともあり内容は全ては理解しきれず、最後まで読めないうちにいつもバスが来てしまうのでした。あれから約15年が経ち、ふとその絵本の事を思い出しました。1度死んでしまったお姫様が、真夜中に宝石が散りばめられた棺から出てきて悪魔と踊る場面だけは記憶に残っていました。記憶を頼りに調べてみるとそれはドイツの昔話「黒いお姫様」でした。当時実際に読んでいた絵本の増刷版も手に入れることができ、15年越しに物語ときちんと向かい合うことができました。

今回は私がその絵本の中で唯一記憶に残っていたお姫様が真夜中に目覚めて悪魔と踊り出す場面を曲にしました。悪魔たちの不気味な雰囲気や、教会にさす月明かりで煌めく棺の宝石の様子を教会旋法などを用いて表現しました。初めて金管五重奏を書いたこともあり苦戦した部分も沢山ありましたが、聴いてくださる方に少しでも雰囲気が伝わると嬉しいです。

<作曲家プロフィール>

宮城県出身。常盤木学園高等学校音楽科卒業。5歳からエレクトーンを習い8歳で「組曲アイス」を作曲。常盤木学園高等学校在学中に宮城県小・中・高等学校児童・生徒作詞・作曲コンクール作曲部門にて優良賞受賞。これまでにエレクトーンと作曲を黒澤真紀、ピアノを鎌田朋恵、作曲と和声学を木島由美子の各氏に師事し、現在は作曲、および作曲理論を松下倫士氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース2年在学中。



瀧本 理夏：《弦楽四重奏曲》より第一楽章、第四楽章

今回は、弦楽四重奏の第1楽章と第4楽章を演奏していただきました。

第2、第3楽章に引き続き、チャイコフスキーをはじめとした様々なロマン派作品を意識した作品になっています。

1楽章は暗く激しいソナタに、対照的に4楽章は快活なロンドの曲になっています。

この一年、ずっと書きたかった弦楽四重奏を手がけ、4楽章構成の一つの曲を完成させることができました。この曲が形になったのはとても実力のある奏者の方々のおかげです。今回演奏してくださった奏者の皆様に心から感謝申し上げます。

< 作曲家プロフィール >

東京都出身。多摩大学附属聖ヶ丘高校卒業。幼少期よりクラシックピアノを西嶋薫氏に師事。これまで作曲を由雄正恒、松浦真沙、作曲理論を木下淳雄の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース2年在学中。



平澤 祐輝：Quintetto Suite《Conception》

初めてピアノ五重奏を作りました。最初は弦楽四重奏のつもりで作りましたが、途中でピアノを入れたいくなり五重奏に変更しました。もう少し作り込みたかったところがありますが、発表会までに完成させられたので良かったとします！

< 作曲家プロフィール >

埼玉県出身。4歳よりピアノを始める。これまで、作曲を清水昭夫、照屋正樹、井上渚、川崎真由子、ピアノを平澤匡朗の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学公式 YouTube で配信する公式ラジオ「2.5 限目 音ノ庭ラジオ」のBGM作曲を担当、YMOの音楽を演奏するプロジェクト「罪科音楽XX」のメンバーとして編曲を担当している。現在、洗足学園音楽大学作曲コース2年在学中。



蓮田 望美:混声合唱のための12のエスキス《のはらうた》より

「いちめんの ゆき」「あまえる ゆめ」「かわあそび」「おいわい」

「のはらのみんなのだいにん」こと工藤直子さんが、「のはらのみんな」のおしゃべりやうたをかきとめてできた本、それが「のはらうた」。なんてロマンチックな詩集でしょう！ ページをめくると、いきものたちはもちろん、そらやうみ、かぜの呼吸でさえ聴こえてくるようです。そんな詩集から詩を選び、四季折々の曲を12ヶ月分つくることにしました。混声合唱のための12のエスキス「のはらうた」の誕生です。エスキスとは、フランス語で下絵を意味します。教会旋法や全音音階を用いた習作を多く含んでいることから、そのような曲名にしました。

今年度の作品発表会では、こゆきよことこなゆきみゆき作詩「いちめんの ゆき」、こぐまじろう作詩「あまえる ゆめ」、あらいぐまげん作詩「かわあそび」、にじひめこ作詩「おいわい」の4曲をおとどけます。何月の曲なのか想像しながら聴いてみるのがおすすめです。

＜作曲者プロフィール＞

カナダ出身、日本人の父と香港人の母をもつ。上智大学経済学部経営学科卒業後、商業不動産の会社に就職。財務を通してキャリアを積むが、音楽家を志し退職。作曲を齋藤圭子、相澤直人に師事、ピアノを新屋里沙、古川貴子に師事、バイオリンを中一乃に師事。上智大学在学中、葉加瀬太郎作曲「ひまわり」をクラシックギターアンサンブルのために編曲し、渋谷区文化総合センター大和田さくらホールで演奏され好評を博す。混声合唱団 Albaporta 団員として活動中。現在、洗足学園音楽大学作曲コース2年在学中。

